

大学入試を含むすべての受験生は音読と書き取り、計算・問題の練習で偏差値大幅アップを
—「音読」「書き取り」「計算・問題」練習なくして「定着」なし、
「定着」なくして偏差値大幅アップなし—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：受験までわずかとなりました。偏差値は今からでも大幅にアップしますか。

A：(1)大学入試を含むすべての受験勉強は、①「本人の自覚」と②「学習時間の長さ」、③「学習方法」、この3つで決定されます。この3つが同時に備わっていれば、短期間でも偏差値は飛躍的にアップします。

(2)一番大切なのは「自分は受験を間近に控えた受験生である」と「自覚」することです。「受験生であるという自覚」を強く持つことが最も大切です。自覚を持った上で、今やらなければならないこと、今やってはならないことを自分の力で考え、自分の力で決定し、自分の力で実行に移すことです。

Q：次にしなければならないことは何ですか。

A：「学習時間の確保」、具体的には、「眠る時間以外は受験勉強をすること」です。受験生の仕事は受験勉強です。入学試験の日は決まっています。最後の試験問題が配られるまで、ひたすら受験勉強に打ち込んでください。そうして、学習時間の長さの絶対量を自分の力で確保してください。

Q：その次に、どうすればよいのですか。

A：(1)「学習方法」を工夫することです。

(2)学習方法で一番大切なのは何か。まずは「理解」です。学校や開倫塾での授業を聴いてわからないことがあったら、必ず先生に質問してわかるようにすることです。つまり、授業内容の「理解」に励んでください。

(3)自分で勉強していてわからない語句（ことば）に出会ったら、気持ちが悪いと思い、必ず辞書を用いて調べて「理解」に励むことです。辞書で調べたことは必ず「意味調べノート」に書き写し、その場で覚えてください。

(4)辞書で調べてもわからない語句（ことば）は、教科書や用語集、学年別参考書を用いて調べて「理解」に励むことです。それでもわからなければ、必ず先生に質問して「理解」に励んでください。

(5)難関大学の受験生ほど、ボロボロになるまで辞書を引いて引いて引きまわります。ことばは力、学力とは語彙数、ことばの数の多さと言えます。ことばの意味がわからないと、試験問題は解けないからです。

(6)このように、「学習方法」でまず大切なのは「うん、なるほど」とよくわかること、つまり「理解」です。

Q：「理解」したら、次は何をすればよいのですか。

A：「理解」したことをすべてスミからスミまで身に着ける、つまり「定着」させることが大切です。知識は「定着」させなければ身に着かず、偏差値アップにつながりません。入学試験での点数アップになりません。

Q：「定着」のためには何をすればよいのですか。

A：(1)3つの練習をすることです。1番目の練習は、スラスラと読めるようになるまで声を出して読む練習をすること、つまり「音読練習」をすることです。
(2)2番目の練習は、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることです。
(3)3番目の練習は、計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るようになるまで「計算・問題練習」をすることです。

Q：受験生も音読や書き取り、計算・問題の練習をするのですか。

A：(1)私は、開倫塾での36年の経験からはっきり言います。「『音読練習』『書き取り練習』『計算・問題練習』こそが、受験勉強として最も大切なものである」と。
(2)例えば、慶應義塾大学に極めてよい成績で入学し、極めてよい成績で卒業した人の大半は、英語だけでなく多くの教科で「音読練習」と「書き取り練習」を怠りなく行っています。一度解いてよく「理解」した計算や問題も繰り返し練習しています。
(3)成績のよい人ほど、すべての教科の勉強として、ブツブツと声を出して音読をしています。大切な語句は「書き取り練習」を怠りません。同じ計算や問題を何回も解き返し、答えがサッと出るようにしています。
(4)新しい問題を次から次に解いて、できたできないと一喜一憂(いきいちゆう)しているだけでは、また、先生の解説を聴いて「なるほど」と「理解」するだけでは、偏差値は多少上がっても、大幅に上がることはありません。
(5)偏差値を大幅にアップさせたいければ、一度学んだ教材のすべて、一度解いた問題のすべてについて「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、すべて身に着けて「定着」させてくださいね。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)開倫塾では、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と「定義」しています。
(2)「定着のための3大練習は、不可能を可能にする」。これを合い言葉に、受験勉強に励んでください。必ず短期間で偏差値が急上昇し、希望校への合格が果たせます。

2015年12月5日(土)記
(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)